

岩手農大同窓会会報

第25号
平成30年
3月2日

【発行・編集】岩手県立農業大学校同窓会 岩手県胆沢郡金ヶ崎町六原蟹子沢14 TEL 0197-43-2211



同窓会も世代交代を見据えて

岩手県立農業大学校同窓会

会長 笹田 昭 市

早春の候、同窓会員の皆様には各地でご活躍のこととお喜び申し上げます。昨年4月の総会で、及川誠前会長の後任をお引き受けしてからほぼ一年が経ちます。

盛岡市出身の私は、昭和48年3月に旧県立農業短期大学校を卒業し、4月から六原農場の農業機械科の臨時職員となりました。翌年4月に県職員に採用されて六原農場に配属となり、昭和51年には県立六原営農大学校の設立と同時に教務係の担当となりました。教務係では、六原農場からの同窓会にも携わらせていただきました。昭和53年から56年まで県立浄法寺宮農高等学園で勤務した後、農業改良普及員として、北上、久慈、江刺と県内各地を回りながら、同窓生の皆様の活躍を拝見しておりました。

平成13年に、初任地だった六原の農業大学校勤務となり、5年間盛岡から通勤しました。平成18年には二戸農業改良普及センターに転勤となりましたが、平成20年に再度農業大学校勤務となり、二日町の公舎で単身赴任をしました。平成24年3月に県

職員を退職後、「JA全農いわて」で4年間お世話になり、昨年4月からは岩手町にある「JA新しいわて 県北園芸センター」に勤務しております。

38年間の県職員生活の内14年間を六原の地で過ごし、最後の4年間は農業大学校同窓会の事務局を担当させていただきました。こんな私が同窓会長を務めることになったことに運命的なものを感じております。

岩手県内の農業教育施設の統合により、昭和56年度に新農業短期大学校が設立され、平成8年度からは岩手県立農業大学校となっています。あれから40年!! 新農業短期大学校の第1期生は、もう少して還暦を迎えようとしております。旧農業教育施設の卒業生が中心だった同窓会も、そろそろ新農短・農大の卒業生が中心となる時期ではないでしょうか？

旧農短出身の私ですが、農大にもお世話になった者としてその橋渡しをすることが役割だと思っておりますので、改めましてこれからよろしくお願いたします。



同窓会報に寄せて

岩手県立農業大学校
校長 高橋 則光

同窓会員の皆様におかれましては、日頃より本校の教育推進に多大なる御支援と御協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、今年度の学生の活動を振り返ってみますと、1年生は15日間の県内の先進農家派遣実習に、2年生は8日間のカリフォルニア大学デービス校を中心とした海外農業研修に取組み、農業現場を肌で感じながら実践力を磨くとともに、国際的な視野を養いました。また、11月に開催した元気の出る農業セミナーでは、同窓生の山中博喜氏（岩手町）と高野寛子氏（奥州市）から、夢と経営戦略について講演をいただき、学生たちは農業への強い思いを大きく膨らませました。さらに、第11回全国和牛能力共進会宮城大会に肉畜経営科学生が出品・入賞、全国技能五輪フラワー装飾部門に本県代表として花き経営科学生2名が出演、いわて純情りんごコンテストで昨年度に続き若者の部1等賞を受賞したほか、東日本農業大学校等プロジェクト発表会で野菜経営科学生が最優秀賞を受賞するなど、日頃の学習成果を存分に発揮しています。

そして、「誇れ！無限の可‘農’性」をテーマとした農大祭では、農畜産物販売、学習紹介やステージイベントなどで、多くの来場者から好評をいただいたほか、今年度開校したいわて林業アカデミー、産業技術短期大学校水沢校、本校の学生によるトークセッションでは、将来の目標や岩手の未来について

熱く語り合い、今後の異業種3校の学生交流を約束しました。

今春卒業予定の48名の進路については、1月末までに98%が確定し、自家就農や農業法人への雇用就農、あるいは農業団体や農業関連企業への就職で28名が地域農業の担い手やパートナーとして巣立つこととなりました。人口減少社会の中にあって、今年も多くの学生が地域に戻り、農業大学校で習得した知識や技能を生かすことができる仕事に進み、地域活性化の担い手として歩んでくれることは、とても心強く感じているところです。

今日の農業・農村は、従事者の高齢化・減少に加え、グローバル化や情報化が進展し、社会・経済環境の変化スピードが加速してきています。こうした急速かつ多様な変化への対応が求められる中で、農業に関する高度な知識と理論に裏付けられた実践力を発揮し、現場で改善や改革をリードしていくことのできる人材育成がますます重要になってきています。

こうしたことから、本校では、国際水準のGAPやICT等を活用した「スマート農業」に関する学習の充実を図ることとして、新たなカリキュラムや施設整備等を行うこととしています。これからも、時代に即した教育・研修の充実強化に職員一同努めてまいりますので、同窓会の皆様の変わらぬ御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、同窓会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝を祈念申し上げ、挨拶といたします。

— 新たな旅立ちにあたり —

今春卒業し、同窓生の仲間入りする学生からの寄稿



▶ 新たな旅立ち

農産経営科2年 阿部 翔太

私の実家は稲作兼業農家です。幼い頃から農業に興味を持ち、農業高校、農業大学校で主に作物について学んできました。

入学してからあっという間の2年間でした。卒業研究では、金色の風の試験栽培ができて良かったです。農業大学校卒業後は、JA岩手ふるさとへ就職が決まっています。まだまだ勉強不足なので、知識を身につけるとともに、笑顔と挨拶を大切に仕事をしていきます。農業を通じて、地域社会に貢献していきたいと思っています。



▶ これから一人立ちです

農産経営科2年 佐藤 一樹

卒業後は実家を継ぐ形で農業に関わります。在学中の事例研究では、県内各地の経営体や関東の中央農業研究センターの見学など、とても貴重な体験ができました。また、農業大学校を通じて、農業従事者や農業改良普及員の方々とも知り合うことができました。授業や免許の取得など大変なこともありましたが、寮生活は個性的な人ばかりで楽しいものでした。

農業大学校で学んだことを活かしながら、地域の農業に貢献していければと考えています。



▶私の将来

野菜経営科2年 中里 直人

私の実家は軽米町で、ホップを栽培しています。農業大学校を卒業後就農し、ホップとネギの栽培をしたいと考えています。

ネギは新規で取り入れる作物なので、足りない知識を農業大学校で学びました。就農後は地域や普及センターの方々から更に知識を得て、自分の経営に活かしていきたいです。そして父を超え、地域で誇れるような農家になりたいです。



▶新たな旅立ち

野菜経営科2年 高橋 未来

私は、農業大学校卒業後に国内研修を受けた後、海外研修に行こうと考えています。研修後は地元に戻り地域に貢献できるような仕事に就きたいです。在学中は初めてのことも多く、戸惑うことも多かったですが学ぶことが多く、農業の魅力をたくさん知ることができました。

まだまだ分からないことも多いですが、ここで得た知識を活かして今後、農業を通してお世話になった方々に恩返しをしていきたいです。



▶卒業後について

果樹経営科2年 沢田 健太郎

私は卒業後、地元の八戸にある市場会社に就職します。市場では果物以外の商品もたくさん取り扱うため、果樹以外の勉強もしていきたいと思えます。そして仕事を早く覚えて、お客様に喜んで商品を買ってもらえるように頑張ります。また、会社には様々な部活があると聞いていますが、自分が大好きなバスケットボールで八戸のクラブチームに所属し、仕事以外も楽しみたいと考えています。



▶今後について

果樹経営科2年 星 昌宏

私は農業大学校卒業後、JA会津よつばに就職します。農業大学校の果樹経営科で過ごした2年間は長いようですが、あっという間に過ぎました。就職先の農協では、農業大学校で学んだ果樹に関する知識を活かせる営農指導員を希望していますが、どこに配属されても農家の話を良く聞きながら農家のお役に立ちたいと考えています。地域内の農業を支えるために精一杯頑張りたいです。ありがとうございました。



▶地域農業に貢献するために

花き経営科2年 小原 唯

出身は北上市で4月からJAいわて花巻の職員として働きます。将来は地元の農業発展に貢献できるような職員になりたいです。そのためには、まず与えられた仕事を一生懸命こなすところから始めたいです。また、人との関わりも大切にしていきたいです。営農指導をするうえで、農業大学校で得た基礎知識をもとに幅広い技術を取得しながら仕事をしていきたいと思えます。



▶農大での学びを糧に

花き経営科2年 渡辺 千穂

私は卒業後、地元企業に就職する予定です。勤務地や担当する業務内容は、就職後に決定する予定ですが、私の希望は花売り場の担当です。希望が叶ったら、農業大学校で学んだフラワーアレンジメントや花き栽培の知識や技術を生かして、お客様の希望に添える仕事をしていきたいと考えています。また、それが会社や地域社会への貢献に繋がるように日々努力していきたいと思えます。



▶地域に根づいた経営を目指して

酪農経営科2年 高橋 郁也

私の実家では酪農を営んでおり、卒業後は自家に就農する予定です。既に兄が就農しているので、酪農に加えて和牛繁殖部門も導入し、兄弟で力を合わせて経営していきたいです。また、私の地元には水田が多数あるため、稲 WCS を有効活用して地域の農地を守っていききたいとも考えています。農業大学校で学んだ知識や人脈を生かしながらその土地に合った経営を行うことで、地域を盛り上げられるよう頑張ります。



▶家畜人工授精師としての新たな一歩

酪農経営科2年 村上 茜

私は陸前高田市の非農家出身です。高校が普通科だったこともあり、農業大学校に入学するまでは家畜と関わることのない環境で育ちました。動物に興味があり酪農経営科に来ましたが、農業大学校で学んだことは全てが新鮮でした。進路はかなり悩みましたが、牛に携わる仕事がしたいという希望と自分の性格を考えた上で、家畜人工授精師として頑張ることに決めました。不安はありますが、農業大学校での経験を活かしていきたいです。



▶ 卒業後の決意

肉畜経営科2年 小野寺 華輝

私は、ヤンマーアグリジャパン(株)東日本カンパニーへの内定が決まり、4月からの研修後、県内勤務となります。仕事に対する不安はありません。しかし、私は私なりのやり方で、県内の農業に機械という分野で、少しでも貢献出来る様に頑張りたいと思います。

農業大学校での2年間、本当にあっという間でした。先生方や仲間にも恵まれて本当に良かったです。次の全国和牛能力共進会でこの10名がまた、会える事を楽しみにしています。私も必ず行きますから。



▶ 畜産業界に貢献するために

肉畜経営科2年 千葉 成道

私は(一社)家畜改良事業団盛岡種雄牛センターに内定が決まり、4月から勤務となります。様々な不安はありますが、畜産業界に貢献できるように頑張ります。

農業について知らない状態で入学したので不安はありましたが、先生方や仲間達に恵まれ思い残すこともなく卒業することが出来そうです。農業大学校で学んだことを活かしながら頑張っていきたいです。

◆ 支部便り ◆

二戸支部

勤め人と「若手の農家」「二刀流」

昭和63年度生物工学科卒
古 舘 寿 徳

第2種兼業農家の長男である私が、岩手県立農業短期大学校生物工学科を卒業したのは、今から30年前です。生物工学科の第1期生ということで、注目度も高く、自分も何らかの形で農業に関係する仕事に就くのかと漠然と考えていた気がします。就職は軽米町役場となり、現在は戸籍、住基、マイナンバーなどを主な業務とする町民生活課で仕事をしています。

こんな私ですが、家業である農業を父から引き継いだのが35歳頃のことでした。畑作として加工用トマトと種子用小麦を合わせて150a、水稻を22a耕作していましたが、仕事柄、手のかかる畑作は無理と判断し、畑作は種子用小麦のみとしました。水稻は、しばらくは自分の家の22aを作付していましたが、妻の実家と伯母の家から耕作を引き受け、現在は95aの水田を耕作しています。

私の住む軽米町も、農家の高齢化や跡取り不足のため耕作放棄地が多くなってきています。今、50歳になりますが、地域では「若手の農家」と捉えられており、近所や親戚から規模拡大の話が多く来ます。勤め人である私には、自ずと限界があるわけですが、地域の営農組合のオペレーターとして、田植えや収穫(コンバイン運転)などの受託を300~400a担当しており、5月~10月は休日を調整しながら作業をしています。

こんな私の現在の楽しみは、薪ストーブの炎を観ながら、読書や晩酌、時々アイスクリームを「まったり」しながら楽しむ時間です。踊る炎、時々はずる薪の音、ストーブに乗せて調理した料理、炉で焼く自家製のピザなどすっかり嵌ってしまいました。夏の農作業の他に、冬の木こり作業も追加となり、メタボ気味の体に鞭打って汗を流しています。



◀ 古舘寿徳さん

最後に、近年、私の身近なところで農業大学校卒で就農した青年が数名居ます。若い彼らが軽米町、岩手県の農業をもっと元気に、もっと明るく導いてくれることを祈っています。

紫波支部

紫波支部矢巾町分会の活動報告

紫波支部役員 宮 一 夫

紫波支部は、紫波町分会と矢巾町分会の二つの分会で構成されており、支部の総会や研修会等の活動とともに各分会においても其々活動をしています。今回は矢巾町分会の活動内容について、紹介します。

矢巾町分会は平成16年11月に分会規約を定め発足し、今年度13年目となりました。発足当時は毎年総

会を開催していましたが、現在は総会と研修会を隔年で開催しており、今年度は総会開催年度となっております。

昨年度は研修会の年度のため、矢巾町内で生産が盛んな椎茸生産の研修を行うこととし、町内の原木椎茸生産農家と菌床椎茸生産農家を訪問し、現地で様々お話しを伺いながら椎茸生産の理解を深めたところです。また、研修終了後は懇親会を行い会員の親睦を深めました。参加者は12名でしたが、JAいわて中央の協力も得、県内最大の原木しいたけ産地でもある矢巾町の実態を垣間見たところです。

また、昨年度は8年ぶりに分会会員名簿を更新しま

した。矢巾町分会には18名の幹事がありますが、幹事が分担し各地区の同窓生の動向を確認しながら名簿を更新したところ。名簿には、大正6年に発足した岩手県立農事試験場練習部から続く農業大学の沿革や農業大学校同窓会会則、現在の農業大学の状況、平成28年度の主な話題等も添付し、少しでも同窓会を身近に感じてもらえるよう工夫もしました。そして、名簿完成後は町内に在住する128名の会員に各幹事が手分けして配布しながら、名簿作成経費の協力金も頂

いたところ。です。

以上、矢巾町分会の活動状況を報告させていただきましたが、実際の活動は幹事を中心に一部の会員が担っており、それも会員の高齢化等も相まって現状を維持することが厳しくなっている状況にあります。しかしながら、先輩方から引き継いだ活動ですので、絶やさないようにしなくてはならないと思っていますところ。です。

花巻支部

家族経営協定を結んで 夢のある農業にチャレンジ

花巻支部長 藤原 勝 栄

花巻支部会員で、家族で話し合いをしながら目標を持って農業を実践している泉澤淳也さんを紹介し

ます。泉澤さんは、昭和63年3月に農業短期大学を卒業し、すぐに就農しました。就農後は花巻地方農業青年クラブに加入し、平成8年、本人は岩手県青年農業士に、母親のミヨ子さんは農業生活アドバイザーに認定され、親子でのダブル認定されたことが話題となりました。家族構成は、両親と本人夫婦、子供さんは2人です。経営規模は、水稲12ha（内受託9ha）、りんご1.2ha、キュウリ0.1haとなっています。

平成8年に結婚、その時から農業経営と生活環境を充実させるため、無理なく働き共同経営者としてお互

いに認め合い、女性も農業者年金に加入するなど、将来の夢を語りながら計画を立て、平成14年に親子夫婦4人で家族経営協定を結びました。

比較的早く協定を結んだため、事例発表の講師として出かけることや、研修に訪れる方々に経験を話すことも多くなりました。

集落活動では、公民館の役員を行っている傍ら、伝統芸能「坂杉かせ踊り」保存会13名のメンバーとして、毎年、小正月行事に、子供達の踊り手と一緒にお囃子で横笛を奏でています。

息子さんには、自家以外での経営体で研修経験をさせ、見聞を広げて独自の感覚を極めてほしいと期待しています。素晴らしい前向きなご家族であり、数年後には淳也さんの息子さんが後継者として、農業経営に参加し、新たな夢を計画に乗せて、家族経営協定のさらなる発展がありますようエールを送り取材を終えました。



◀泉澤淳也さん

気仙支部

若きOB、農業担い手目指す

気仙支部 見世 祐 孝

気仙管内で平成26年に就職し、日々業務に励んでいる大船渡市出身の中村亮太さんを紹介し

ます。中村さんは水稲を学ぶべく農産経営科に進み、卒業後は地元の農業生産法人(株)JAおおふなとアグリサービスに就職。気仙地区の農業に携わりたいとの希望から進んだ職場でした。現在の仕事内容は作業受委託部門に配属され、施設でトマト、ミニトマト、イチゴ、パプリカ、菌床椎茸を生産しています。中村さんは主に、パプリカを中心に生産担当していますが、農業研究センター先端プロ事業の一環で現場の責任者として現在は頑張っています。今後、普及していく野菜の生産の難しさと同時に、課題解決のために工夫を凝らして技術習得の向上が出来た時の達成感が、やり甲斐と農業に対する魅力へと繋がっているようでした。

仕事の心構えは、「責任を持って従事すること、高品質と多収量の目標をもって、一つの失敗をしないように」と話します。

また、「農家や東北の農業関係機関から模範となる会社、尊敬される人材になりたい」と今後の会社の目標と、「自分は農業のプロになる！」と自分の目標も笑顔で話してくれました。中村さんとお会いして、真面目さと仕事への情熱が伝わってきました。

私は中村さんが高校生の時からの付き合いですが、就職して未だ、数年しか経っていない中でも立派に成長していると感じさせていただき、頼もしく、すごく嬉しかったです。

今後も、失敗を恐れず、色々なことに本気で挑戦しつつ、担い手として色々な角度から気仙の農業に貢献していただきたいと思

います。若き農大OB！頑張れ！



◀中村亮太さん

奥州支部

農業の可能性に挑戦

奥州支部長 及川良直

都会生まれ、都会育ちの農家の嫁が大きな夢に向かって奮闘中の江刺区「紅果園」の高野寛子さんを紹介いたします。

農業に興味を持ったのは、彼女が高校時代、長期の休みがある度に、母の実家（旧大野村）に行き農作業を手伝ったこと（下重農園）で、いつからか農業を自分の職業にしたいと思うようになったという。そこで、知識や技術向上のため、農業大学校に入学し、恩師から「りんごの声が聞こえるように」、「口先で語るな、りんごで語れ」と、徹底した指導を受け、りんご作りへの思いはさらに強くなったという。卒業を控えた冬休み、りんごの剪定研修先で運命の出会いがあり、「白馬に乗った王子様」が現れ、間もなくして嫁に行くことになったと、優しい眼差しで話してくれた。

嫁ぎ先の義父は、江刺りんごのブランドを築き上げた方で、長年多くのお客さんとの信頼関係も構築され

ていた。嫁として何ができるだろうか。そんな不安とプレッシャーの中、3人の子供に恵まれ、子育てと仕事を両立させてきたという。そんな中、主人や家族の理解のもと、岩手大学のアグリフロンティアスクールへの応募を始め、共同経営者として家族経営協定の締結や認定農業者の共同申請を行うことにより、自分の役割が明確となり、活動に対して自信が付き、夢がさらに大きくなってきたという。

また、地域の小学校への食育活動を通じて、りんごの素晴らしさやりんご作りの楽しさを伝えていけば、新たな後継者が生まれるはずとの確信のもと、「江刺りんご、そして岩手のりんご産業の発展に向けた歩みを続けていきたい」と。これから広がる農業の可能性に挑戦する高野さんの姿が頼もしくもあり、素晴らしい。



ますますの先進的な活動をご期待申し上げます！

◀夫婦でりんご畑にて

東日本農業大学校等プロジェクト発表会で最優秀賞に中里直人さん!!

平成30年1月16日から17日に東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会が北海道帯広市で開催されました。本校からは卒業研究の成果を発表する「プロジェクト発表部門」に花き経営科2年の渡辺千穂さん、谷藤真緒さん、野菜経営科2年の中里直人さん、「意見発表部門」には肉畜経営科2年の佐藤太朗さん、果樹経営科1年の照井康毅さんが練習の成果を生かし、堂々と発表しました。

審査の結果、「プロジェクト発表部門」の最優秀賞に中里直人さんが見事選ばれました。岩手農大からの受賞は実に4年ぶりとなります。2月12から14日に国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）で開催される全国大会でも活躍が期待されます。

「プロジェクト発表の部」

- 「ネギの発酵豚糞の利用による化学肥料代替技術の検討」 野菜経営科2年 中里 直人
- 「リンゴの全茎収穫による単収・収益向上の効果検討」 花き経営科2年 渡辺 千穂
- 「リンゴにおける需要期出荷のための品質保持剤の検討」 花き経営科2年 谷藤 真緒

「意見発表の部」

- 「～型にはまらない～大好きな牛飼いで生活するには」 肉畜経営科2年 佐藤 太朗
- 「果樹栽培をしていくには」 果樹経営科1年 照井 康毅



▲中里直人さん

平成30年3月卒業予定者の進路状況について (平成30年1月末現在)

今年度の卒業生は、本科48名ですが、進路の内訳は自家就農7名、農業法人等9名、進学4名、農業団体8名、農業関連企業4名、一般企業8名、研修5名、公務員等2名となっております。

主な進路先は、次のとおりです。

- 就 農：盛岡市、遠野市、一関市、葛巻町、軽米町、鹿角市、湯沢市
- 農業法人：西部開発農産、北上市機械化農業公社、北一農、家畜改良事業団盛岡種雄牛センター、うちちゃんファーム等
- 農業団体：JA岩手ふるさと、JAいわて花巻、JA大船渡、JA秋田おばこ、JAこまち、JA会津よつば
- 農業関連企業：ヤンマーアグリジャパン、佐藤政行種苗、三菱農機販売
- 一般企業：スーパーオセン、ユーアイ、花弘、生協コープふくしま等
- 研 修：北海道北見市（酪農）、久慈市山形町（肉牛）、奥州市（肉牛）、鹿児島県薩摩川内市（肉牛）等
- 公務員等：岩手県警察、岩手県農業公社
- 進 学：新潟大学、岩手大学(2)、秋田県立大学